

平成26年度 第1回学校評議員会報告「提言等のまとめ」

盛岡工業高等学校

- 1 期 日 平成26年8月5日(火) 15:00~16:30
- 2 場 所 本校 応接室
- 3 出席者
評議員 伊藤 隆 (盛岡市立飯岡中学校 校長)
千田 展久 (横河電子機器株式会社盛岡事業所 製造部長)
八重樫 典彦 (岩手県立産業技術短期大学校 副校長)
*欠席 小川 久太郎 (体育後援会 会長)・佐藤 香紀 (学校薬剤師)
学校側 藤原 斉 (校長)
佐々木 光男 (全日制副校長)・浅沼 孝夫 (定時制副校長)
津田 敏 (事務長)
伊藤 浩之 (総務部長代理)・菊地 敬司 (教務部長代理)
佐々木 秀治 (進路指導部長)・小林 俊博 (生徒指導部長)
*欠席 岩淵 健一 (全日制副校長)
- 4 説明内容並びに質疑応答・提言等
 - (1) 学校経営計画について (校長)
 - (2) H25活動報告
 - ① 進路決定状況・資格取得状況・今後の見通しについて (進路指導部長)
 - ② 部活動成績・復興教育・いじめ防止対策・生徒の現状について (生徒指導部長)
 - (3) H26活動計画
 - ① PTA活動について (総務部長)
 - ② 分掌工程表について (教務部長)
 - ③ 定時制課程の取り組みについて (定時制副校長)

【 質疑応答 】 学校評議員からの質問並びに提言

「定時制課程の取り組みに関して」

ア 定時制課程への入学者が減少しているのはなぜか。

*回答：昔のような「働きながら学びたい」という形での志願者は、ほとんどいなくなっている。いろいろ困難を抱えている生徒が多いのが実情である。現在は、生徒11名に対して教員15名と、大変手厚い指導がなされ、生徒は毎日元気に登校している。行事などにおいては寂しい面もあるが、中学校にも進路の選択肢として考えてほしいところである。

イ そのような受け皿があることを、中学校の教員や保護者は知っているのか。

*回答：今後、一層PRに努めたい。

「進路指導に関して」

ウ 就職者の進路実績に関して、統計上の県内・県外の区別はどのようになっているか。

*回答：求人票における企業の所在地で集計している。

エ 就職における県外希望者の割合はどの程度か。一般的には県内希望者が多い印象があるが、県外で経験を積むという考えもあるが、いかがか。

*回答：本校では県外に就職した卒業生が多く、その繋がりから本校を指名する求人も多く、生徒たちも県外に出ることに抵抗感はない。一方、昨年からは地元求人も増加しているので、それに応じて県内就職が増えつつある。

エ 生徒の意識としては、地元求人があればそちらを優先したいという傾向か。何か要素はあるか。

*回答：地元希望者は比較的早い段階で意思表示をしている。一般的に考えられる少子化による地元志向の高まりという影響はないようである。

オ 中学校段階では、本人・保護者ともに地元志向が強まっているように感じられる。震災の影響も見ら

れるが、そればかりでもないようである。中学校としては、生徒の視野を狭めたくないの、それぞれの生徒が可能性を見つけられるよう取り組んでいる。

「体験入学について」

カ 体験入学の希望数の推移はどうなっているか。

*回答：ここ数年は400から500名である。昨年度は例年になく特に多かったの、その比較では減少したが、今年度も500名を越えている。1日で二つの科を体験できるようにしている。

キ 中学校では体験入学を大切に優先しており、生徒にいくつかの高校に行かせたいと考えているが、日程が重なっていたり、第一希望の高校からの案内が遅かったりと、その調整が困難であった。高校側の日程調整があれば有り難い。

*回答：各高校とも受け入れ可能な日程が限られていて、同じ事情を抱えていることから重複が生じるのが実情であるが、貴重な提案として今後検討していきたい。

(4) 本校の課題に係る意見交換

【 質疑応答 】 学校評議員からの質問並びに提言

「インターンシップについて」

ク 2年生のインターンシップは3日間で行われているが、短いのではないか。産業技術短期大学の生徒は1週間であったが、それくらいの期間であるとそれなりのことができる。3日間だと実作業は正味1日となる。ものづくりのインターンシップとしては短く感じられる。

*回答：インターンシップは、2年生250名を85社にお願いして実施している。会社への負担を考慮して例年3日間に行っているが、企業からのアンケートでは1週間の求める声もある。学校として生徒を1週間派遣することが可能かを含めて、今後検討したい。

ケ 生徒全員の参加でなければならないのか。

*回答：2学年全生徒が参加する学校行事として実施している。

他校では5日間としているケースもある。仕事を知ることではそれくらいの期間は必要だとは考えているが、企業側の希望と、生徒ごとの個別日程を組めないという授業との兼ね合いから検討していきたい。

「女子生徒の進路指導について」

コ 女性の活用については、会社でも分野を広げたいと考えているところであるが、学校としてはどうか。これからは、いろいろな面で変わっていく必要もあると考える。

*回答：「ものづくりネットワーク」においても、女性の進出は課題となっている。本校では建築・デザイン科に女子生徒が多いが、この科に限らず、意識が高い女子生徒が入学している。中学校の協力を得ながら、多くの女子生徒を迎えたいと考えている。

サ そのことについては、保護者を含めて意識を変えたいものである。企業としても採用を広げている。学校としても宣伝が必要ではないか。

*回答：学校としてもPRに努めたい。

シ 体験入学における女子の参加希望者数の推移はどうなっているか。社会進出に合わせて、中学校における女子生徒の意識も変化している。体験入学は学校を知る大きな機会なので大切にしてほしい。

*回答：女子の参加数は増加傾向にある。中学校PTAによる学校訪問などでは、保護者の方々の、本校における女子の受け入れについての関心の高さがに伝わってきた。丁寧な説明を心掛けており、志願者の増加に繋げたいと考えている。

ス 資格取得に向けた取り組みについて、例えば、技能士などはどのように取り組んでいるのか。

*回答：資格については、授業と直結するもの・その応用となるもの・課外で対応するものなど、いくつかのパターンがある。費用の面で高額になるものもあるが、就職などにおける武器にもなるので取得を積極的に働きかけている。資料の中の合格率が高い分野については、技能士を含めて授業を通じて組織的に一斉に取り組んだものである。

「その他」

セ 以前にこの高校にお邪魔した時のことであるが、生徒の挨拶がとてもよかった。きちんとした挨拶で、

文化になっていると感じた。そのことを生徒さんにも伝えてほしい。自信にも繋がるのではないかな。

また、部活動については、全国大会に出場するような部はもちろん、それ以外の部についても伸ばしてほしい。

ソ ものづくりコンテストに参加した生徒が入社していて、その時の話を聞いたことがあるが、学習の成果を発表できる場が、他にもあるのか。

*回答：中学生の体験入学や文化祭における実習の公開、出前授業など地域向けの行事などがある。

タ 2ヶ月に1回開催される「盛岡工業クラブ」では、盛岡農業高校の生徒が参加した例もある。そのような校外の行事をよい刺激を受ける場としてほしい。様々な形でPRしてほしい。

*回答：学校にはPRが下手である面は確かにある。外に向けた発表の場も必要であるし、いくつかは本校でもよい取り組みを実施しているが一般には伝わっていないようである。今後、発表の場を増やしていきたい。

チ 産業技術短期大学校では、若手教員と校長の懇談の機会を設けているが、その中では入学者の意識の高さが不十分であるということであった。産業デザイン科でも、学校において何をやるかがはっきりと分かっているのは2割程度である。

ただ、今の学生にあまり早くから将来のことを求めるのも酷かもしれない。インターンシップやアルバイトなど外に出る機会を設けてあげると、社会的なことで覚えることも多いので、その機会を増やしていきたい。

(5) その他

① 施設設備について（事務長）

- ・概要（S45の移転以来使用している校舎だが、耐震工事は終了しているので当面は継続使用）
- ・H25補修工事実績（受水槽の改修・寄宿舎の整備など）
- ・H26計画（グラウンドの大雨被害の復旧・実習棟FFヒーターの改修など）

(6) 校長から

本日は様々なお話や激励をいただきありがとうございました。

お越しいただいた皆様は、本校に生徒を送る側の中学校、また、本校から送り出す就職進学それぞれの進路先の方々ということで、生の声をお聞きすることができ有り難く思いました。本日のお話をこれからの学校生活に活かし、次回皆様にお越しいただいた時には見ていただけるようにしたいと思います。少しでもいい学校にして、地元の方々とともに地域を活性化していきたいと考えています。

今後ともよろしく願います。